

学習成果を披露 「メロンフェス」

深谷ははたき特別支援学校
深谷市本田の県立深谷ははたき特別支援学校（矢島誠校長、児童生徒数278人）で28日、学習成果を発表する文化祭「メロンフェスティバル」が開催された。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して10回目の今回は規模を縮小。学年ごとに見学時間を指定し、各家庭2人までの入場にした。

高等部は6班に分かれて作業学習に取り組んでいる。清掃班は伸縮ポールを使って窓や掃除の道具ポリッシャーを使って床などを磨いている様



紹介された陶芸班の作品―深谷市、県立深谷ははたき特別支援学校

子を写真で紹介。1年の男子生徒は「使う人が気持ちよく使ってもらえるように掃除しています」と説明していた。

革工芸班は革で作ったペンケースや野菜の絵柄が付いたストラップなどを販売。2年生の女子生徒は「ここに来た人が私の作品を買ってくれたのかなと思うと楽しくなります」とほほ笑んでいた。

体育館ステージには高等部が取り組んだ縦4段、横6段の海をイメージした大壁画を展示。生徒に海の映像や波の音を聞かせ、海で取れる乾物の香りをかいてイメージを膨ませてから生徒が1作ずつ絵画を描き、その中から1点を選んで作品にした。はがき1600枚を使った壁面に保護者も関心を示していた。

片山利明教頭は「本校の魅力や輝く子どもたちの取り組みを文化祭を通して地域に発信したい」と話していた。

（新井千昌）